

屋間小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①基礎基本の徹底と思考力・判断力・表現力を伸ばす指導の工夫
- ②自らの目標を持ち主体的に取り組むことができる家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 低学年推進員
 研修主任 中学年推進員
 高学年推進員

校長

佐藤 元



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・基礎・基本の学習内容について、仕方や手順が習得できると、進んで取り組むことができる。 ・学習課題に集中して取り組む時間が増えてきた。	自分に応じた課題に積極的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	・単元末の評価テストの平均点が80点以上を目指す。 ・学力調査や学カステップアップテストでの正答率が県平均以上を目指す。			
課 題 ・基礎・基本の計算や漢字の読み書きに大きな個人差があり、二極化の傾向がある。 ・話の内容を聞き取ったり、文章を読み取ったりする力に課題のある児童がいる。	具体的方策(教員の取組) ①低学年は、チャレンジタイム(朝の活動)を利用し、ドリル学習に繰り返し取り組む。 ②スキルアップタイム(放課後学習)の時間には、個別指導を行い、基礎基本の定着を図る。 ③ノート指導を徹底し、思考の流れや学習内容を振り返ることができるノート作りを目指す。	取組指標 ①チャレンジタイムやスキルアップタイムで行う課題正答率が80%以上を目指す。 ②1週間に1回以上、児童のノートを点検し、評価する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・自分なりに課題に対する答えを見出し、発表しようとする児童が増えている。	自分の考えや思いを理由付けして、筋道を立てて話すことができる。	・課題に対する自分の考えを80%以上の児童が記述できる。			
課 題 ・人の意見を聞いて、自分との違いに気付いたり、考えを深めたりできる児童が少ない。 ・情報を取捨選択して内容を整理したり、物事を多面的に捉えたりする力が十分でない。 ・目的や意図に応じた文章を書くことが苦手の児童がいる。	具体的方策(教員の取組) ①学習活動の中で、ペア学習・班学習の場を設定し、自分の考えや思いを表現する時間を充実させる。また、全校で統一している話型・文型や発表の仕方を徹底し、自分の考えや思いを表現することができるようにする。 ②授業や家庭学習において、自分の考えを書く機会を設ける。	取組指標 ①ペア学習・班学習では、90%以上の児童が理由とともに自分の意見を発表できる。 ②自分の考えを書く活動を週2回以上行う。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ・宿題や決められた課題には進んで取り組むことができる。	家庭学習の方法や内容について、自分自身が目標を設定し、それを達成できるように取り組む。	毎月1回、家庭学習チェックを行い、80%以上の児童が自分で頑張りたいことを決めて実践する。			
課 題 ・自ら学習課題を見つけたり、目的意識を持ったりしながら学習に取り組んでいる児童が少ない。	具体的方策(教員の取組) ①東みよし町「学びの手引き」を参考に、自主学習内容を選択できるよう提示する。 ②「家庭学習チェック表」を活用し、自分でめあてを決めて取り組めるようにする。 ③学習ノート等の指導方法を工夫し、児童が家庭学習に生かすことができるよう指導する。	取組指標 ①学級だより等で学期に1回、児童の自主学習への取り組みについて保護者に伝える。 ②ポジティブな行動支援により、努力の過程を認める。 ③手本となる学習ノートを校内に掲示し、月1回更新する。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

